

木更津工業高等専門学校

平成 25 年度 地域共同テクノセンター活動報告

I 平成 25 年度活動の結果と点検評価

1. 新たな活動

1. 1 地域連携：キッズサイエンスフェスティバルの開催
1. 2 産学連携
 1. 2. 1 技術振興交流会会員企業説明会の実施
 1. 2. 2 レベルアップ講座充実化に向けた検討
 1. 2. 3 技術振興交流会 HP 刷新
 1. 2. 4 地域連携ワーキング立ち上げ
1. 3 研究促進サポート
 1. 3. 1 校長裁量経費とのリンク実施
 1. 3. 2 高専機構 CD による申請書作成指導
 1. 3. 3 本校における人を対象とする研究倫理審査規則の整備

2. 継承した事業活動

2. 1 企業技術者等活用プログラムの実施
2. 2 主要研究設備集の作成と公開
2. 3 小中学校教員への教育支援
2. 4 近隣小学校への学生派遣
2. 5 外部資金獲得に関する啓蒙活動
2. 6 木更津工業高等専門学校技術振興交流会への協力
 2. 6. 1 テクノフォーラム
2. 7 生涯教育, 出前授業など
 2. 7. 1 2013 サイエンススクエア
 2. 7. 2 出前授業
 2. 7. 3 公開講座
2. 8 外部資金の確保
 2. 8. 1 共同研究, 受託研究, 奨学寄附金及び受託試験
 2. 8. 2 技術相談事業
 2. 8. 3 知財講習会への職員派遣と教員への周知
 2. 8. 4 科研費獲得にむけての講習会実施
2. 9 その他外部機関等との交流
 2. 9. 1 高専間・大学間交流
 2. 9. 2 市町村との交流
 2. 9. 3 県との交流
 2. 9. 4 地域交流 (来校)
2. 10 広報事業
 2. 10. 1 メディア作成
 2. 10. 2 メディア発信
 2. 10. 3 公的機関の広報紙発信

3. ラボの稼働状況

4. 課題

II 運営委員会の実績

III 運営委員会委員と事務部担当

I 平成 25 年度活動の結果と点検評価

1. 新たな活動

1. 1 地域連携：キッズサイエンスフェスティバル開催

木更津高専技術振興交流会の共催、近隣四市の教育委員会および商工会等の後援のもと、7月23日(火)、キッズサイエンスフェスティバルを開催した。これは、昨年まで秋に本校の第一体育館で行っていた木更津高専サイエンススクエアを、小学生の夏休みに合わせて主に木更津高専の総合教育棟を利用し、名称を変更し実施したものである。複数のテーマを1カ所に集約した大規模なイベントとなり、約350名におよぶ近隣の小学生が参加し、「ものづくりの楽しさ」を体験してもらうことができた。

実施状況については、テクノセンターニュース vol. 21 (2013年10月8日発行)にも掲載し、木更津高専技術振興交流会会員にも周知した。



図 1.1-1 「振動モータと歯ブラシ」の様子 図 1.1-2 「バイオマスエネルギー」の様子

1. 2 産学連携

1. 2. 1 企業説明会の実施

本科4年生および専攻科1年生を対象とした技術振興交流会会員企業による会社説明会を初めて開催した。学年末試験終了後の2月20日(木)の放課後に開催した。今年度は参加希望企業が4社であったため、第一講義室において各30分のプレゼンテーションを行っていただいた(図1.2.1)。参加学生数は50名と想定したより少なかったが、就職希望の学生にとっては関心の高い内容であり、講演終了後の質疑が大変活発に行われた。



図 1.2.1 技術振興交流会会員企業による会社説明会

1. 2. 2 レベルアップ講座充実化に向けた検討

今年度までは、レベルアップ講座を、合計6時間又は15時間の数日にわたるテーマを例年10テ

一マ程度提示し、会員 3 名の参加希望者をもって開講する形をとってきたが、残念ながら実際に開講される講座数は極めて少ない状況であった。その要因として、「レベルアップ講座は敷居が高く申し込みにくい」、「開講日を決めてもらった方が申し込みやすい」、「数日にわたる講座では参加しにくい」等の意見が会員より挙げられた。そのため、従来のレベルアップ講座の実績等を基に以下のように内容等を見直し、より親しみやすく・参加しやすい「新たなレベルアップ講座」の開講を検討した。

1. 領域に偏らず各学科・学系ごとに1講座、合計7講座程度を開講
2. 開講時間の短縮化（半日から1日程度で開催）
3. 参加対象の弾力化（内容によって会員の家族も参加可能）
4. 情報提供の充実化（開催日・内容等を技術振興交流会HPから提供）
5. 申込方法の簡略化（HPから申込可能）

現在、来年度の開講に向けて準備を進めている。

1. 2. 3 技術振興交流会のWebpage刷新

技術振興交流会のWebpageは、2004年に当時のテクノセンター長の大澤教員が中心となって学外のWebサーバ上で運用していた。しかし、メンテナンス作業の向上やドメイン名の維持経費などの観点から、学内にWebサーバを置くように方針を変更することとなった。そこで、2013年4月より、図書館のサーバ室にnotePCを設置し、学外向けネットワークに接続、情報公開を開始した。

当初は、学外のWebサーバのデータをそのまま用いてページを構成していたが、9月からはWebオーサリングツールのMODxを用いてページを刷新した。技術振興交流会のtop pageを図1.2.3に示す。



図 1.2.3 技術振興交流会 top page

なお、技術振興交流会が共催となった「木更津高専キッズサイエンススクエア」の申し込みWebpageは、このテクノセンター用のWebサーバ上で運用した。

今後、レベルアップ講座の充実化などに伴い、Webpageのさらなる活用が期待される。

1. 2. 4 地域連携ワーキング立ち上げ

本校における地域連携・産学連携の重要性が年々増している状況下において、地域共同テクノセンターの活動範囲も多岐にわたってきている。一方で、本校のベースとなる教育研究活動も様々な観点からの取り組みを期待され、応えていく必要性に迫られている現状である。本テクノセンター運営委員会では、このような背景の中で本校としての存在意義を高めていくためには、常勤教職員に加えて本校OB教員及び定年退職された本校卒業生の協力を得る事が、将来的な発展に有効であると位置付け、平成25年7月4日「木更津高専地域連携ワーキンググループ」を立ち上げた。本ワーキンググループは、センター長、副センター長、総務課長及び外部有識者から構成され、地域社会との連携協力を一層推進することを目的としている。外部

有識者として、本校名誉教授である黒川章二氏、小平眞次氏、高上輝雄氏、高橋邦夫氏、天摩勝洋氏 5 名に委嘱した。

平成 26 年 1 月 17 日に、第 1 回目ワーキング会議が開催され、①地域連携に関する事として、出前授業を OB 教員 CD に担当していただく可能性について、②産学連携に関する事として、技術振興交流会会員向けレベルアップ講座を担当していただく可能性について、③その他地域社会との連携に関する事として、OB 教員 CD が培ってきた地域企業・行政機関担当者に関する情報のデータベース化について話し合われた。

1. 3 研究促進サポート

1. 3. 1 校長裁量経費とのリンク実施

今年度より、前年度科研費申請書評価結果 A または B の教員に、校長裁量経費 C-2 萌芽・挑戦的研究支援経費を重点的に配分し、対象教員 6 名に計 275 万円を配分した。

1. 3. 2 高専機構 CD による申請書作成指導

高専機構地域イノベーション推進本部産学連携・知的財産推進室 近藤コーディネータに依頼し、平成 25 年 9 月 9 日本校にお越しいただき、前年度科研費評価結果 A の教員 5 名を対象として、申請書のブラッシュアップに関するアドバイスを各教員 40 分程度していただいた。

1. 3. 3 本校における人を対象とする研究倫理審査規則の整備

本校の教職員による人を対象とする研究計画に対し、倫理的配慮のもと科学的に適正な研究を実施するため必要な事項を定めることを目的とする「木更津工業高等専門学校研究倫理審査規則」(案)を策定した。今後、学内手続きを経て平成 26 年度から施行される予定であるが、研究実施者は先ずチェックシートで当該研究計画について研究倫理面からチェックした後、必要に応じて自身の判断で校長宛に研究倫理審査申請を行うこととなる。

研究倫理審査申請は研究実施者の権利との解釈から必ずしも求めるものではないが、当該審査申請が校内の研究倫理審査担当委員会の審査を経て校長から承認されれば、当該研究が研究対象者の人権や権利等を重んじるとともに、研究の公正さと信頼性等が確保されているとの確認が本校から公式に得られたうえで研究を開始できる環境が整うこととなる。

2. 継承した事業活動

2. 1 企業技術者等活用プログラムの実施

昨年度までは、本プログラムでは企業等への学生による取材活動を実施してきた。今年度より、専攻科全専攻第 1 学年対象の PBL 科目である「問題解決技法」の授業の形を一新し、地域産業界における種々の課題を授業テーマとして取り組む共同教育を初めて実施した。まず、OB 教員コーディネータの方々に多くの近隣企業を訪問していただき、その結果、多くの企業から課題を御提供いただいた。これらのテーマから 5 テーマを選択し、5 月 7 日に企業担当者によるプレゼンテーションをお願いした。それを踏まえて学生がテーマを選択し、5 名程度の学生で班を形成してそれらの課題に取り組んだ(図 2.1-1)。その成果を 9 月 10 日に開催した成果報告会で発表した(図 2.1-2)。地域産業界における現実の課題に取り組むことで、高い教育効果があったと考えている。一方で、半期 2 時間の限られた授業時間で実施したため、時間が不十分であったなどの問題点もあった。さらに、問題解決技法の授業で取り上げられなかった課題に対するフォローアップとして、卒業研究や専攻科特別研究での共同研究の実施を検討している。



図 2.1-1 各グループ毎の討論風景



図 2.1-2 成果報告会 (9 月 10 日)

2. 2 主要研究設備集の作成と公開

平成 24 年度に発行した主要研究設備集に、平成 25 年度新たに導入された研究設備の情報を追加し、本校HPに公開した。なお、利用者の利便性を高めるため、目次は従来の学科毎によるものではなく、五十音順とした。



図 2.2 主要研究設備集

2. 3 小中学校教員への教育支援

昨年度に引き続き、小中学生の理科離れの解消と理科授業の能力向上を目的に、木更津市まなび支援センターの依頼を受け、平成 25 年 7 月 31 日（水）、本校を会場として木更津市夏季小中学校教員研修会を開催した。

今回は「理科目線で空をチェック」というテーマのもと、市内の小中学校教員 25 名が参加し、木更津市初谷教育長も、真剣な態度で講座に取り組む参加教員の様子を視察した。講師は、本校物理担当教員 3 名が務め、ペットボトルを利用した雲の作成やプラネタリウムの制作、屋外の放射線量の測定などを行った。参加者からは「自校での理科授業に役立てたい」などの声もあがり、充実した研修会となった。

<本校ホームページ 2013/08/05 ニュース&トピックス参照>

2. 4 近隣小学校への学生派遣

昨年度に引き続き、近隣の小学校に対する地域支援を行った。木更津市立東清小学校の依頼により、本校学生 12 名を「寺子屋『東清』」に派遣した。派遣学生は、平成 25 年 7 月 22 日（月）～7 月 26 日（金）の 5 日間にわたり、各学年の担任教員に協力し、ものづくりの基礎となる算数や国語の指導を行った。

本校からテクノセンター長をはじめとする教職員計 3 名が東清小学校を訪問し、学生が小学生に対して熱心に指導する様子も視察した。実施後に学生に行ったアンケートでは、昨年度の評価と同様に、学生自身の取り組みの姿勢や参加後の満足度に関して自己評価が高く、本校学生は熱心に取り組み、非常に有意義な体験ができたものと考えられる。

2. 5 外部資金獲得に関する啓蒙活動

平成 20 年の世界同時不況や平成 23 年の東日本大震災及びその後の急激な円高による景気低迷は、平成 25 年度も継続傾向がみられた。本校の 3 本柱（教育・研究・地域貢献）の一つである研究について、資金不足による停滞が、昨年度に引き続き危惧された。そこで、外部資金獲得に関する啓蒙活動としてまず、科学研究費の申請を積極的に行うと共に採択率を上げるため、8 月 26 日に石川高専村本健一郎校長をお招きして「科研費獲得を目指した学内活性化の取り組みと研究計画調書作成における留意点」と題した講演会を実施した。本講演の中で、石川高専で実施した留年者対策や環境整備など学内活性化の取り組み、及び研究計画調書作成における具体的な方策について論文作成と比較しながらお話をいただいた。その他に、「科研費獲得に向けた取り組み」と題して、本校の科研費採択者 3 名からの事例報告があり、各々の取り組み状況や、申請書作成時に留意した点などを中心に報告があり、最後に、村本校長から 3 名の事例報告に対し講評を頂きました。参加者にとって科研費獲得の重要性を改めて認

識する機会となった。

次に、競争的研究資金獲得講演会として7月26日に株式会社島津製作所産学官プロジェクト推進室橋本志朗氏（元NEDO新技術調査委員）をお招きして「競争的研究資金の仕組みと申請のポイント～NEDO若手研究 Grant 及びJST・A-STEPを例にして～」と題した講演会を実施した。本講演の中で、競争的研究資金の仕組みと申請のポイントを若手研究 Grant 及びJST・A-STEPと比較しながらお話をいただいた。

2. 6 木更津工業高等専門学校技術振興交流会への協力

2. 6. 1 テクノフォーラム

例年と同様2回開催された。第19回では、リピーター創出専門コンサルタント一圓克彦事務所代表一圓克彦氏と本校情報工学科栗本育三郎教授の2名に特別講演を行っていただき、第20回では、阪田特許事務所阪田俊彦氏と本校環境都市工学科岐美宗教授に特別講演を行っていただいた。

表 2. 6. 1 テクノフォーラムの内容

回数	講演内容（講師）	日時・参加人数
第19回	① 「細霧発生による気温・飽差インテリジェントコントロールシステム（ANTS）の開発」 本校 情報工学科 栗本育三郎教授 ② 「伝わる」表現技法で顧客の反応率を3割アップ！～顧客心理を理解し、適切なコピーを作成する～ リピーター創出専門コンサルタント 一圓克彦事務所・代表 一圓克彦氏	10月8日（火）実施 参加者 84名
第20回	① 「企業・学校における知的財産の管理及びその留意すべき事項について」 阪田特許事務所 阪田俊彦 氏 ② 「地域教育から見る学生の活躍と協働のまちづくりー広島から木更津へ そして広島へー」 本校 環境都市工学科 岐美 宗（みちよしつかさ）教授	2月4日（火）実施 参加者 93名

2. 7 生涯教育、出前授業など

2. 7. 1 2013サイエンススクエア

サイエンススクエアには、高専機構本部より依頼を受け、2005年度から継続して参加している。本校のテーマは毎年人気が高く、今年度も表2.7.1に示す企画で、国立科学博物館でのサイエンススクエアに参加した。

表 2. 7. 1 2013サイエンススクエア実施企画名

企画名	おもしろ万華鏡をつくろう！
	金属探知機を作って宝探し！！
	電子オルゴールを作ろう！
	君にも作れる光通信

2. 7. 2 出前授業

実施した21件の出前授業のリストを表2.7.2に示す。小学校や中学校、公民館等からの要請に応えた。

表 2.7.2 出前授業リスト

NO	実施日	担当者		テーマ・内容	依頼元	参加人数
		学科・学系	氏名			
1	平成25年4月23日	人文学系	坂田 洋満	100メートル走・リレー指導	木更津市立西清小学校	100名
2	平成25年5月2日 平成25年5月9日	人文学系	坂田 洋満	走り方の基本 各種目・リレーの技能指導	木更津市立木更津第一小学校	150名
3	平成25年5月7日 平成25年5月14日	人文学系	坂田 洋満	陸上指導	木更津市立祇園小学校	60名
4	平成25年5月13日	人文学系	坂田 洋満	基本的な走り方について	木更津市立富岡小学校	32名
5	平成25年6月15日	電子制御工学科	沢口 義人 関口 明生	ひらおか子ども理科教室 (体験コース)	袖ヶ浦市立平岡公民館	19名
6	平成25年7月30日	基礎学系	福地 健一 嘉数 祐子 高谷 博史	講義・実験「理科目線で 空をチェック！」	木更津市学び支援センター	25名
7	平成25年8月6日	基礎学系	嘉数 祐子	サタデースクール事業～ みんなあつまれ！夏休み 科学教室	木更津市清見台公民館	28名
8	平成25年7月22日～ 平成25年7月26日	人文学系	坂田 洋満	短距離走	木更津市立木更津第三中学校	6名
9	平成25年8月23日	電子制御工学科	鈴木 聡 関口 明生	こどもチャレンジ教室	富津市民会館	19名
10	平成25年12月13日	基礎学系	嘉数 祐子 高谷 博史	理科ものづくり	木更津市立木更津第1中学校	97名
11	平成25年10月12日	教育研究支援センター	立石 友二 嶋野 慶次 今村 進 小林 裕一郎 青柳 宏昭 藤井 亮 白井 淳司	子どもチャレンジ教室 磁石とコイルを使って音を 聞いてみよう	千葉市生涯学習センター 3階 工芸研修室	20名
12	平成25年10月31日	環境都市工学科	鬼塚 信弘	地震に関する出前授業	袖ヶ浦市立長浦中学校	104名
13	平成25年11月11日	電子制御工学科	鈴木 聡	SPP(ロボット研究の講義 及び製作)	木更津市立馬來田小学 校	54名
		電子制御工学科	関口 明生			
		電気電子工学科	大澤 寛			
		電気電子工学科	飯田 聡子			
	平成25年11月15日	電気電子工学科	岡本 保			
		電子制御工学科	鍋田 正俊			
平成25年11月15日	電子制御工学科	泉 源				
	教育研究支援センター	立石 友二				
平成25年11月15日	教育研究支援センター	星野 真紀				
14	平成25年11月21日	電気電子工学科	大澤 寛 上原 正啓 飯田 聡子 大野 貴信 浅野 洋介	もの作り体験活動	木更津市立岩根中学校	80名
15	平成25年12月5日	基礎学系	嘉数 祐子	理科教室	木更津市立富岡小学校	26名
16	平成26年1月18日	基礎学系	嘉数 祐子	冬の万華鏡づくりと液体 窒素実験教室	木更津市立金田公民館	20名
17	平成26年1月24日	電気電子工学科	岡本 保	自然エネルギーの利用若 しくは太陽光発電関係	富津市商工会	35名
18	平成26年3月17日	基礎学系	嘉数 祐子	理科「光の性質」～万華 鏡づくり～	君津市亀山中学校	20名
19	平成26年3月2日	基礎学系	嘉数 祐子	万華鏡づくりと液体窒素 実験教室	畑沢公民館	30名
20	平成26年3月2日	人文学系	坂田 洋満	走り方の基本	FCウーノ木更津	50名
21	平成26年3月4日	基礎学系	嘉数 祐子	理科教室	木更津市立富岡小学校	26名

2. 7. 3 公開講座

公開講座の実施リストを表 2. 7. 3 に示す。公開講座は 14 講座実施した（平成 24 年度 15 講座、平成 23 年度 21 講座、平成 22 年度 21 講座、21 年度 17 講座、20 年度 20 講座、19 年度 26 講座、18 年度 31 講座、17 年度 26 講座）。参加者によるアンケートの回答結果、満足度は約 90%であった。

表 2. 7. 3 公開講座の実施実績

NO	実施日	担当者		講座名	対象者	参加人数
		学科・学系	氏名			
1	5月11日(土)	人文学系	坂田 洋満	陸上競技教室 ー早く走るコツとそのトレーニング	小学生 (高学年向き)	92 名
2	5月12日(日)	人文学系	坂田 洋満	陸上競技教室 ー早く走るコツとそのトレーニング	小学生 (高学年向き)	75 名
3	6月29日(土)	人文学系	清野 哲也	柔道ってどんなもの？	小学生	30 名
4	7月6日(土)	電子制御工学科	大橋 太郎	リナックスパソコンでレゴ ロボットを制御しよう	中学生	13 名
5	7月30日(火)	電気電子工学科	石川 雅之	簡単なラジオの製作	小学4年～中学3年	14 名
6	8月3日(土)	情報工学科	渡邊 孝一	君にも出来るメディアデザイン ー テクノマスコット	中学生	9 名
7	8月6日(火)	教育研究支援センター	立石 友二	夏休み子ども工作教室	小学4年～小学6年	20 名
8	8月22日(木)～ 23日(金)	電子制御工学科	泉 源	移動ロボットを作ろう!	小学5年～中学2年	15 名
9	9月15日(日)	人文学系	篠村 朋樹	ジュニアバレーボール教室	小学生	21 名
10	9月21日(土)	基礎学系	関口 昌由	作って確かめる立体図形 の不思議	小中学生	12 名
11	10月19日(土)	電気電子工学科	浅野 洋介	金属探知機を作って宝探し!!	小学4年生～	15 名
12	11月9日(土)	電子制御工学科	沢口 義人	電子オルガンを作ろう!	小学4年～中学生	11 名
13	11月30日(土)	電子制御工学科	鈴木 聡	レゴロボットを作ろう!	小学生	19 名
14	12月7日(土)	電子制御工学科	坂元 周作	くるくるクリスマスツリーを 作ろう!	小学4年～中学生	19 名

2. 8 外部資金の確保

2. 8. 1 共同研究、受託研究、奨学寄附金及び受託試験

共同研究、受託研究、奨学寄附金及び受託試験について、平成 14 年度からの実績を表 2. 8. 1-1 に示す。共同研究は、採択件数及び採択金額ともに倍増している。受託研究については、平成 23 年度から採択件数が減少傾向であるが、採択金額は増加している。一方、奨学寄附金については、件数・金額ともに昨年度より減少傾向である。受託試験については、実施しなかった。なお、これらの外部資金の全体総額は前年比 156. 47%と増加傾向である。

表 2. 8. 1-1 外部資金

年度	共同研究		受託研究		奨学寄附金		受託試験
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	金額(千円)
H14	1	2,000	0	0	16	11,563	353
H15	3	5,600	2	1,250	16	9,180	636
H16	7	11,360	1	105	19	12,930	152
H17	9	13,110	3	1,618	18	10,900	125
H18	9	15,190	1	1,180	23	15,430	187
H19	13	19,725	1	1,180	16	13,637	718
H20	15	20,525	5	11,331	18	9,409	404
H21	11	10,450	3	11,498	13	11,338	(注)
H22	7	7,800	3	12,653	16	9,355	21
H23	9	4,064	6	20,000	18	8,760	14
H24	7	654	5	13,494	22	13,876	42
H25	17	3,353	3	27,300	18	11,882	0

(注) 実習工場改修のため実施せず ※端数切捨て

科学研究費補助金の採択状況を表 2.8.1-2 に示す。昨年度と比較すると、主に若手Bの新規採択件数が増加したことにより、合計金額も増加した。

表 2.8.1-2 科学研究費補助金 (含む継続)

年度	基盤C		奨励		若手B		若手(スタートアップ)		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成 14 年度	3(1)	5,100			2	1,900			5(1)	7,000
平成 15 年度	1(2)	2,500			3(1)	5,400			4(3)	7,900
平成 16 年度	1(2)	2,000	1	750	1(4)	3,900			3(6)	6,650
平成 17 年度	0(2)	1,300	2	1,440	1(2)	3,400			3(4)	6,140
平成 18 年度	5(1)	10,200	1	680	1(1)	3,500			7(2)	14,380
平成 19 年度	0(6)	4,800	7	3,620	2(2)	6,100			9(8)	14,520
平成 20 年度	1(4)	5,200	2	1,160	1(3)	2,000	1	1,330	5(7)	9,690
平成 21 年度	2(1)	3,800	2	770	1(2)	1,600	(1)	1,200	5(4)	7,370
平成 22 年度	1(3)	2,500	3	1,500	0(2)	1,200	1	1,140	5(5)	6,340
平成 23 年度	1(3)	3,600	4	2,100	1(2)	3,300	(1)	1,120	6(6)	10,120
平成 24 年度	3(2)	6,500	2	1,000	(1)	400			5(3)	7,900
平成 25 年度	2(4)	5,600	2	1,100	3	3,600			7(4)	10,300

単位：千円 直接経費のみ表示 ※ () は継続分で外数

2. 8. 2 技術相談事業

本校における今年度技術相談：28 件

(平成 24 年度 38 件、平成 23 年度 44 件、平成 22 年度 22 件、平成 21 年度 35 件、平成 20 年度 27 件、平成 19 年度 35 件、平成 18 年度 12 件、平成 17 年度 13 件、平成 16 年度 14 件)

2. 8. 3 知財講演会の実施

平成 26 年 2 月 4 日に、木更津高専技術振興交流会第 20 回テクノフォーラムにおいて、阪田特許事務所阪田俊彦氏をお招きして「企業・学校における知的財産の管理及びその留意すべき事項について」と題した講演会を実施した。

2. 8. 4 科研費獲得に向けての講習会実施

8 月 26 日 (月)、石川工業高等専門学校村本健一郎校長を講師にお招きし、「平成 26 年度科研費獲得のための講演会」を開催した。この講演会は、本校における科研費獲得の増進を目指して昨年度も開催したもので、今年度は村本健一郎校長の参加をいただいた。本講演の中で、石川高専で実施した留年者対策や環境整備など学内活性化の取り組み、及び研究計画調書作成における具体的な方策について論文作成と比較しながらお話をしていただいた。その他に、「科研費獲得に向けた取り組み」と題して、本校の科研費採択者 3 名からの事例報告があり、各々の取り組み状況や、申請書作成時に留意した点などを中心に報告があり、最後に、村本校長から 3 名の事例報告に対し講評を頂きました。参加者にとって科研費獲得の重要性を改めて認識する機会となった。

<本校ホームページ 2013/09/03 ニュース参照>

2. 9 その他外部機関との交流

2. 9. 1 高専間・大学間交流

高専間・大学間交流を促進していくため、共同研究の実施状況を調査し、63件の実施状況を確認した。

2. 9. 2 市町村との交流

- ・木更津異業種交流プラザ定期総会：4月18日 石出、岡本、齋藤
- ・木更津異業種交流プラザ例会参加
栗本(5/9)、島崎(6/13)、加藤(7/11)、高谷(9/12)、小川(10/10)、石川雅(11/14)、岡本峰(2/13)
白木(3/13)
- ・市原市・中小企業活力支援セミナー：9月20日 石出、岐美、松本
- ・いちばら銀杏の会：9月20日 石出、岐美、松本
- ・おた研究・開発フェア：10月3日～4日 石出、小田、田井、鈴木
- ・君津商工会議所2013ビジネス交流会：10月18日 石出、松本
- ・君津市賀詞交換会：1月8日 工藤校長、石出
- ・木更津市賀詞交換会：1月9日 工藤校長、石出
- ・木更津市異業種交流プラザ新年会：1月9日 石出、松本

2. 9. 3 県との交流

- ・ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援事業に係る地域採択審査委員会：4月15日 石出
- ・ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援事業に係る地域採択審査委員会：5月9日 石出
- ・ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援事業に係る地域採択審査委員会：8月7日 石出
- ・千葉県異業種交流融合化協議会通常総会：5月21日 日程の調整がつかず欠席

2. 9. 4 地域交流（来校）

- ・コラボ産学官千葉支部理事会：4月17日 齋藤
- ・千葉エリア産学官連携フォーラム実行委員会：4月22日 松本
- ・千葉大学CSPC運営委員会及び幹事会：5月20日 石出
- ・コラボ産学官千葉支部第6回通常総会：5月16日 石出、松本
- ・東葛テクノプラザ第13回通常総会：6月27日 日程の都合がつかず欠席
- ・千葉エリア産学官連携フォーラム実行委員会：6月5日 松本
- ・千葉大学CSPC運営委員会及び幹事会：9月4日 石出
- ・コラボ産学官千葉支部事務協議会：7月11日 松本
- ・千葉エリア産学官連携フォーラム実行委員会：8月5日 日程の調整がつかず欠席
- ・千葉エリア産学官連携フォーラム：9月4日 石出、栗本、大野、渡邊、小川、松本
- ・千葉エリア産学官連携フォーラム実行委員会：10月21日 日程の調整がつかず欠席
- ・コラボ産学官千葉支部第7回千葉フォーラム：11月19日 石出、小田、松本
- ・千葉大学CSPC幹事会：12月18日 石出
- ・コラボ産学官千葉支部事務協議会：3月20日 日程の調整がつかず欠席

2. 10 広報事業

2. 10. 1 メディア作成

- ①2012年度事業報告（1,200部作成）
- ②テクノセンターニュース第21号（100部作成）テクノセンターニュース第22号（100部作成）

2. 10. 2 メディア発信

- ①房総ファミリア新聞

2. 10. 3 公的機関の広報誌発信

- ①市役所の広報紙
- ②商工会議所等の会報

3 ラボの稼働状況

平成 20 年度からの各ラボの使用状況を表 3.1 から 3.6 に示す。

表 3.1 平成 20 年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	塩害劣化等により鉄筋にマクロセル腐食が生じた部材の診断・補修・補強方法の開発に関する研究（その2）	青木優介	学会発表等 5 件
2, 3	真直度測定器の開発	黄野銀介、鈴木 聡	学会発表等 2 件
2, 3	・人体のバイオメカニクスの研究 ・介護予防の身体へ及ぼす影響	黄野銀介	学会発表等 9 件

表 3.2 平成 21 年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	(実験実習センター改修工事による仮移転先として利用)		
2	(実験実習センター改修工事による仮移転先として利用)		
3	・人体のバイオメカニクスの研究 ・高強度鋼板の打ち抜き端部からの破断機構の解明	黄野銀介	学会発表 学会発表等 4 件

表 3.3 平成 22 年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	機械要素の振動・騒音の低減に関する研究	板垣貴喜	
2	・介護予防の身体へ及ぼす影響 ・人体のバイオメカニクスの研究	黄野銀介	論文 1 件 学会発表 7 件
3	・天井走行クレーンとラフタークレーンの衝突防止装置開発 ・重量物の保守点検時における作業負荷軽減装置の開発	大橋太郎 内田洋彰	

表 3.4 平成 23 年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	機械要素の振動・騒音の低減に関する研究	板垣貴喜	
2	・介護予防の身体へ及ぼす影響 ・人体のバイオメカニクスの研究	黄野銀介	
3	・天井走行クレーンとラフタークレーンの衝突防止装置開発 ・重量物の保守点検時における作業負荷軽減装置の開発	大橋太郎 内田洋彰	

表 3.5 平成 24 年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	機械要素の振動・騒音の低減に関する研究	板垣貴喜	
2	・介護予防の身体へ及ぼす影響 ・人体のバイオメカニクスの研究	黄野銀介	
3	申請テーマなし。		

表 3.6 平成 25 年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	機械要素の振動・騒音の低減に関する研究	板垣貴喜	
2	複数の 2 次元画像を記録するディスプレイの開発	白木厚司	
3	羽ばたき翼空力特性及び熱流体現象の解明	石出忠輝	

4 課題

- (1) 技術者等活用プログラム（COOP 教育の継続展開等）申請内容充実化に向けた検討
- (2) 技術振興交流会活性化に向けた継続的なアクション（企業説明会、レベルアップ講座の展開等）
- (3) 補正予算関連施設設備の一般公開及び主要設備集の充実化
- (4) 高専機構地域イノベーション推進本部及び関東信越地区高専テクノセンターとの連携強化
- (5) 地域連携ワーキング会議における審議内容（OB 教員 CD が培ってきた地域企業・行政機関担当者に関する情報のデータベース化）の具現化

II 運営委員会の実績

第1回 4月16日	第2回 5月28日	第3回 6月18日	第4回 7月16日
第5回 9月17日	第6回 10月15日	第7回 11月19日	第8回 12月10日
第9回 1月21日	第10回 2月25日		

III 運営委員会委員と事務部担当

センター長	石出 忠輝（機械工学科）	
副センター長	吉井 文子（基礎学系）	岡本 保（電気電子工学科）
	齋藤 康之（情報工学科）	
センター委員	加藤 達彦（人文学系）	小川登志男（機械工学科）
	坂元 周作（電子制御工学科）	岐美 宗（環境都市工学科）
	立石 友二（教育研究支援センター）	萩原 隆一（総務課長）
事務部	松本 義一（研究協力・地域連携係長）	鈴木芙実子（研究協力・地域連携係）